

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

令和元年7月 第221号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

認知症大綱—予防と共生 —古い支度が支える子供達の100年—

介護保険制度は2000年に、予防給付の仕組みを5年の試行期間を設けた上で発足しました。そして、2006年に予防をより強化した予防重視型システムとして再出発し、その後3年毎の報酬改定時には、予防効果が期待できるサービスに対する加算が次々と追加されました。しかし、2018年から予防給付は介護保険から外され、要支援やその予備軍の方々に対して市町行政が行う老人保健事業の一環として、介護予防活動をより広く地域住民に向けて実施しています。国が市町に対して交付金を用意し、要介護に成らない様に認知症に成らない為にと、全国各地で「生き生き百才健康体操」や「ふれ合いサロン」などが開かれ、ピンピン・コロリが老いの理想と捉えて国民各自が健康寿命を延ばして、最期まで自立した生活を目指す努力を奨励します。

最近には特に高齢運転者による交通事故が目立つ様になり、運転免許証更新時における認知症検査や免許証返納など、認知症対策に注目が集まっています。従来行ってきた、市民の中で認知症の理解を深め、認知症サポーターを養成し認知症との共生を図る施策に加えて、「70代の発症を10年間で1歳遅らせる」などと認知症の人数を抑える数値目標を掲げた、予防を重視した認知症大綱の素案が5月に発表されました。その後、数値目標については多くの反発で撤回されましたが、認知症の発症や進行を遅らせる予防対策に重点を置いた『予防と共生』を柱とした大綱が6月に閣議決定されました。

我々は介護従事者の必然として、多くの認知症の人が最期を迎える暮らしに接する中で、進行に連れて初期の混乱期から徐々に抜け出し、長年の暮らしで積み重ねた経験則を発揮して、しなやかに、したたかに、たくましく生きて、穏やかに最期を迎える認知症の人を数多く看取って来ました。知性や理性や体力が衰え失われる中で、本能として身に付いた感性・感覚と自らが蓄えた経験則を駆使して生き生きと暮らす姿に感動を覚えます。認知症の発症も進行も、更にはガンの発症も進行も、自然の摂理に添った老いの必然として受容れる心の許容量を大きく広げて、吾身の老いに向き合いたいと願います。

(次ページに続く)



(前ページの続き)

最近、旧優性保護法の下で不妊手術を強制された障害者への救済法が成立しましたが、救済の申請があまり進んでいない様に見受けます。優性保護は劣性予防の裏返しでもあり、らい予防法に因る隔離政策と同様に、予防の効果的な実現を目指す法には、大きな間違いを犯す危険性が潜んでいます。かつて日本では戦前に、治安維持法の下で予防拘禁が厳しく実施され、多くの悲劇を生みました。予防の効果的な実現を目指す制度には慎重に臨みたい、と願います。

6月3日の神戸新聞夕刊『未踏の老いを生きる10』に、社会学者・春日キスヨ氏が『晩年をどう生きるか 必要なのは「老い支度」』と書かれています。『人生100年ともいわれる超長寿時代。「ピンピン・コロリ」は願望に過ぎず、晩年の「ヨロヨロ・ドタリ」期をどこで誰に支えられて生きるか。これは大問題である。・・・健康寿命を延ばす運動に励み、終活という名の「死に支度」はしても、最期まで尊厳を持って生きるための「老い支度」をする人は少ない。これは不思議なことである。一体、なぜなのだろう。・・・「衰えて人に迷惑をかけるより、死んだ方がまし」と老いを否認し、必要な依存さえ「悪」と考える自立志向。しかし、そうした個人の生き方に関わること以上に大きいのは、長寿化と家族の変化が相まって進む未踏の時代に、何をどう備えればいいのか分からないことだ。家族力の弱まりが分かっても、それに代わるつながりをどうつくればいいのか分からない。一方、財政難の中、国が変化に即応した制度改革に取り組む姿勢も見えない。そうした文化的空白、制度的空白の中で、取りあえず手持ちの知識である健康づくり、終活に励む。それが今の高齢者の実情なのだろう。そうした時代に、何が求められているか。老い支度の必要性を自覚し、新たな地平を皆で共に切り開いていくしかない。それが私の考えである。』

『必要な依存さえ「悪」と考える自立志向』正にその通りと共感です。依存は個人的な必要性以上に、社会的に必要なのだと確信します。老いて他者への依存を要する暮らしを介護する営みには、依存される立場の人達が老いの変化に触れて、社会を構成して生きる上で必要となる「思想と人間性と社会性」を学び、育む為の重要な経験が凝縮されています。老いて要介護の身を他者に委ねることは、次の世代に社会を引継ぐ為に必要な、自然の摂理に添った老いの本能であり、人が社会を構成する上で最も根源的な社会性を帯びた営みです。ピンピン・コロリでは、その社会性が発揮されません。寿命が延びて今や人生100年・未踏の世を切り開く為の施策は、令和に生れた子供達が「100年の未来」を生き抜く力を養い蓄える為に、十二分に役立つものでなければなりません。

高齢化・長寿化が進むと同時に、団塊ジュニアの誕生以降40年以上に亘って少子化が続き、今や深刻な人口減少社会に陥っています。その数少ない子供達が生まれて間もなく親に虐待される事件や、学校でいじめられて自殺する事件が頻発し、10代前半の子供達の死因の1位が自殺などと、子供を取り巻く環境が脆弱で悲惨です。令和を迎えた今の世が、子供達が100年を生きる力を十分に蓄えられる良好な環境とは、とても思えません。

今や古稀を超えた団塊の世代は、自らが100才を目指す暮らしの中で、自然の摂理に添った老いの本能と社会性を忘れずに老い支度を整え、認知症になり介護を要する身を他者に委ねて穏やかに最期を迎え、子供達が100年を生きる力を蓄える為に役立ちたい、と心より願います。

Tさんの看取りについて

地域密着型特養 藤久 智秀
(介護福祉士・社会福祉士)

Tさんはユニット型特養に入所され、その後ショートステイの利用を経て、地域密着型特養に入所されました。

平成31年1月に亡くなるまで4年程せいりょう園で過ごされました。顔見知りの職員も多く、普段は穏やかで憎めない笑顔のある方でした。ただTさんは他の利用者の方と比べて、介護時や看護師からの処置時に拒否が強く見られる方でした。私がTさんをベッドから車いすへの移乗介助中、かけていた眼鏡を掴み取られたことがありました。介護拒否のある利用者の方に対して強い口調で声掛けすることはないのですが、この時は強めの口調で『眼鏡を掴み取られた』行為に対しての自分自身の思いをTさんに伝えました。するとTさんは「ごめんな。」と言い、眼鏡を返してくれました。この時からTさんに少しずつ受け入れてもらった様な気がしています。私は介護拒否のある方が、抓ったり引っ掻いたりという行為があっても、声掛けはしてもその行為に対して自分がどう思っているのかを相手の方に伝えることをしてこなかったのだと思います。ただ我慢しながら介護するのではなく、相手の方と向き合い、1人の人として思っていることを伝えることの大切さをTさんから教えていただいた気がします。

Tさんに関わらせていただいている時に感じたのは、「昔はTさんのように拒否される方が、今よりもいたなあ。」ということでした。私がせいりょう園で勤め始めた頃は介護保険制度が始まる頃で、今のように街中で、ヘルパーやデイサービスの車を見かけることもあまりありませんでした。利用者もご家族も福祉サービスの利用に慣れておらず、介護拒否をされる方が多くおられました。現在は一般的にヘルパー、デイサービス、ショートステイを利用される方が増え、利用者さん自身も他者に身を委ねることができる。また慣れた方が増えてきたと思います。

介護を拒否する方と、拒否せずに受け入れている方の、どちらがより自然な反応なのかは今の私では解りませんが、介護拒否のある方からは、何が要因なのか、どうすれば受け入れてもらえるかの気づきや工夫を。また拒否のない方からは、もしかしたら本当は拒否したいかもしれないが、身を委ねてもらっていることを心に置きながら、日々の介護に就きたいと思います。

またTさんの看取りで考えさせられたのが、亡くなったのが食事中だったということです。Tさんの場合、食べ物が詰まったのではなく、老衰の過程にある状態低下を起こしたのが食事中だったのです。私はまだ経験がないのですが、トイレ中や入浴中に亡くなる場合もあるかもしれません。そういった際に、亡くなった現場にいなかった方々（ご家族や関係者）にいつ、どのような状況で、どのような状態の変化があり、亡くなったのかという、ありのままの事実をたとえ亡くなった現場を見ていなくても誤解なく伝わるよう説明することの大切さと、また説明できるように日々の状態観察や気づきを大切にしたいと思います。





天台宗 教信寺法泉院 長谷川 慶悟 住職



本日の仏教講話は野口町にあります教信寺法泉院のご住職長谷川 慶悟様です。梅雨前線が活発になると気象予報で聞いておりましたが、昨日からの雨が朝には止み、ほっとした思いでご住職がお見えになるのを心待ちにしておりました。多くの方々も早くから集まって下さいました。毎回、コントラバスの演奏をして下さいます。昨年凄い雨の中をお越し頂いて、申し訳なく思ったのですが、今回はとても蒸し暑い日となり

りました。ご住職は汗をふきふき、会場に入って来られました。そして、すぐに1曲目を演奏されました。

「こんにちは。今日は皆さんが徳を積んでおられたおかげで、良い天気にして頂きました。ピアニストの都合が悪く、一人でスピーカーを持ってやってまいりました。

先程、演奏した曲は『愛のあいさつ』です。この曲を作ったのはエルガーというイギリスの作曲家ですが、苦学生で音楽教室を開いて生計を立てていました。ある美しい貴婦人がレッスンに来て、エルガーはその女性を好きになり、この曲を作曲して贈り、女性が受け入れ結婚しました。このように音楽の力は、例えば辛い悲しい時に聴いたら元気になるような曲があります。音楽によって、様々な心の情景を作っていきます。」と話されて、曲の紹介をしながら演奏して下さいました。

『白鳥』（動物の謝肉祭より）

子供たちに音楽を好きになってもらおうとして作られています。今、皆は森の中を散歩しています。樹が生い茂っています。そこを抜けていくと大きな湖に出ます。音楽にはすごいパワーやエネルギーがあります。私たちの心を一瞬にして湖に連れて行ってくれます。今、皆は何が見えたでしょう？白鳥、アヒル、カモ、ニワトリ・・・？

『いい日旅立ち』

あちこちへ行くのがしんどくなってきますね。旅行するのは簡単に出来ます。場所だけでなく、良い曲を聴いて、時間を超越して雲に乗って、今皆さんはこの世の極楽浄土に行っているように思います。

『津軽海峡冬景色』

北海道とか津軽海峡を渡って、涼しい所に行かれた事がありますか？私は北海道には未だ行ってないのです。暑い頃に行きたいなと思いますが、その頃はお盆で忙しくなかなか行けません。音楽によって、涼しい冬の景色を夏に思い浮かべる。音楽によって暑さをしのげる。これもいいですね。

『川の流れのように』

ここは、加古川の川が流れているので、加古川市と言います。昔は野口町に加古

の駅がありました。奈良の都から大宰府まで駅があり、これを山陽道と言いますが、日本の最初の国道1号線です。加古の駅は馬40頭いる最も大きな駅でした。加古川というのは、気候が温暖で災害が少なく、文化も早くから栄えた所です。播磨風土記にはこの土地が肥えて、米がよく採れると報告されています。今ものどかな豊かな街となっています。加古川の川がもたらした大きな恩恵かも知れません。加古の駅から次の宿場町まで、念仏を唱え、荷物を運んだり、灌漑用水の池『駅ヶ池』を造り農耕を手伝ったりしながら、生活されていた教信上人がおられました。最初にこの地に念仏を広められた方で、『阿弥陀丸』とか『荷送り上人』と呼ばれ、敬慕されました。そんな土地柄や最先端の人が住まっていたのが、播磨のこの土地です。

『また君に恋してる』

『いいちこ』のお酒の宣伝で一時歌われていましたね。酒は百薬の長と言われてます。飲み過ぎはよくありません。ある名言があります。『酒は人をあかんようにするのではなく、その人が元々あかん人だと暴くものなのです』

「皆様、暑い季節ですけれど、健康に気をつけて豊かにのんびりと過ごして下さい。そして、部屋から出て、自分の足で歩いてここまでやって来て下さい。いくつになっても、自分を鍛え甘やかさないで下さい。また、元気で出会い出来る事を祈っております。」

以上でお話と演奏が終わりました。聴き入ってしまい、時間があっという間に過ぎてしまいました。口ずさんでおられる方や首を振って、リズムをとっておられる方等、一様に音楽に身を委ね、余韻に浸っておられました。いつも大きな楽器を抱えて大変な思いをして頂いてのお越しに、感謝しております。本当にありがとうございました。

サービス付き高齢者向け住宅相談員：岡村 照代
(介護支援専門員)



【せいりょう園特養待機者状況（令和元年7月1日現在）】

○入所判定済み者 148人

（内訳）要介護1：20名 要介護2：21名 要介護3：42名

要介護4：33名 要介護5：32名

（希望する特養）地域密着型特養のみ 84名 ユニット型特養のみ 15名

両方 49名

特養の入所は、県の「入所判定マニュアル」に基づき、要介護度3以上の方が対象となります。待機中の方で介護度が変更になった方、要介護度1・2であるが在宅での生活が困難な方は入所の対象となる場合がありますので、お手数ではございますが、近況をお知らせください。



介護について語ろう会【令和元年5月24日】

グループホーム 高瀬 美咲
(介護福祉士)

今回の介護について語ろう会は「認知症について」をテーマに、認知症の方、家族、地域の方、実習生、職員と幅広い世代が集まり情報共有や意見交換を行いました。世間の認知症のイメージは、物忘れ・徘徊・何もできないなどがあると思います。高齢者でも認知症になっても自身でできることは沢山あります。実際に入居されている方の声を聞くことで、当日は実際に「認知症になりたくない。」から「認知症になっても幸せに過ごしている。」ことを感じてもらえるような場にしたいと思いました。

初めは、認知症の方に『認知症についてどう思いますか?』と質問すること自体どうなんだろうと不安や戸惑いがありました。実際に入居されている方に認知症についてや、困っていることについて意見を聞いてみると、「普通に生活しているので体に染みついているし、まだできると思っている。」「困っていることはありません。」「夫と二人でここへの暮らしを選択して良かった。安心している。」と話がありました。

又、日本の幸福度について施設長から話を聞いたことがあり、当日は発表ができませんでしたが実際にグループホームでも『幸せですか?』とアンケートを取りました。日本の幸福度ランキングは世界で58位だそうです。質問してみると8割の方が「幸せです。」と答えていました。その理由は、「家にいても一人、ここにおる方が楽しい。」「みんなが良くしてくれるから幸せ。」「若いときは働いてばかり、今が一番贅沢!」「日本人は贅沢と違うか?たまには苦になることがあっても、ええ方にとらえなきりがいいよ・・・」と話がありました。『長生きをしたいですか?』の質問に対しては、「100歳まで生きたい。」「健康であれば長生きしたい。」という意見もあれば、「あまりええことない。」「長生きはしたくない、もう94だから・・・」「何も言うことなし!」と様々な意見を聞くことができました。

現在、家族が施設に入居している方からの話がありました。認知症になる前から家族の関係が悪く今も面会に来ることがストレスに感じていると言われていました。又、何が原因で認知症になるのかと質問がありました。同じ境遇の方から「認知症の原因は考えるだけ無駄。今は無理に面会できなくても最期を迎えた時にちょっとしたことができたと考えられるようになる。」と話がありました。家族が来ることで安心したり嬉しい気持ちはきっとあると思います。今は会うことや関わることに時間がかかっても、いつかお互いこれで良かったと思える関係が築けたらいいなと思いました。

他にも認知症の言動がみられたので、病院で検査をしたいが本人に受けいれてもらえないなどの悩みがありました。私は今まで経験したことを何か伝えられたらと思いましたが、その場でアドバイスになることが言えませんでした。そして先輩職員や看護師の話を聞いて学ぶ時間となりました。最後に実習生と新人職員に感想を聞いた所、実習生は「最初は何もできない、同じ話を繰り返すイメージがあったが実際に関り知ることによって自分の時間を生き活きと生活していることを感じられた。」、新人職員は祖父の介護を通して「経験する中で介護は楽しいのかもしれないと思った。」と意見がありました。実際に利用者の方と関わることで自分の気持ちに変化があったり、介護や認知症に対してプラスのイメージが少しでも伝わったのではないかと思います。体験したことや声に出して伝えることでいろんな人と繋がるすることができます。もし一人で悩んでいる方がおられたら語ろう会に是非参加してみてください。



[社会福祉法人はりま福祉会 平成30年度決算報告]

貸借対照表

平成31年3月31日現在

勘定科目	金額
流動資産	498,926
固定資産	1,617,610
基本財産	774,429
その他の固定資産	843,180
資産合計	2,116,536
流動負債	288,426
固定負債	402,563
負債の部合計	690,989
基本金	414,238
国庫補助金等特別積立金	283,882
その他の積立金	300,566
次期繰越活動収支差額	426,860
(うち当期活動収支差額)	18,781
純資産の部合計	1,425,546

[単位：千円]

事業内容

- ・ 法人本部
- ・ 軽費老人ホームケアハウス
- ・ 老人介護支援センター
- ・ 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
- ・ 介護老人福祉施設（ユニット型特養）
- ・ 短期入所生活介護（ショートステイ）
- ・ 通所介護（デイサービス）
- ・ 訪問介護（ヘルパー）
- ・ 訪問看護
- ・ 居宅介護支援
- ・ 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
- ・ 認知症対応型通所介護
- ・ 小規模多機能型居宅介護
- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- ・ 喫茶ルーム
- ・ 鍼灸マッサージ治療センター
- ・ サービス付き高齢者向け住宅
- ・ グループハウス

資金収支計算書

自平成30年4月1日 至平成31年3月31日

勘定科目	金額
事業活動による収支	
収入計	753,841
支出計	699,786
事業活動資金収支差額	54,055
施設整備等による収支	
収入計	106,644
支出計	149,350
施設整備等資金収支差額	-42,706
その他の活動による収支	
収入計	16,854
支出計	19,128
その他の活動資金収支差額	-2,274
当期資金収支差額合計	9,075

前期末支払資金残高	264,387
当期末支払資金残高	273,462

[単位：千円]



事業活動収支計算書

自平成30年4月1日 至平成31年3月31日

勘定科目	金額
サービス活動増減の部	
収益計	738,098
費用計	719,248
サービス活動増減差額	18,850
サービス活動外増減の部	
収益計	6,784
費用計	9,492
サービス活動外増減差額	-2,708
経常増減差額	16,142
特別増減の部	
収益計	22,936
費用計	20,297
特別増減差額	2,639
当期活動増減差額	18,781
前期繰越活動増減差額	408,079
当期末繰越活動増減差額	426,860
その他の積立金取崩額	0
その他の積立金積立金	0
次期繰越活動増減差額	426,860

[単位：千円]

【ケア・アシスタント事前説明会開催！】

この度、兵庫県の「ひょうごケア・アシスタント推進事業」による「ケア・アシスタント」を募集します。そこで下記の日程で事前説明会を行いますので、初めて介護施設で働く方や、興味はあるが技術や知識・体力などで不安がある方など、年齢や資格は問わないので、ぜひご参加ください。

日 時：8月14日（水）10：30～11：30
場 所：せいりょう園リバティかこがわ2階ホール
内 容：「ケア・アシスタント」の説明、雇用期間・
労働時間・賃金などの労働条件
問合先：せいりょう園 TEL（079）421-7156



【グループホームまどか入居者募集！】

せいりょう園グループホームまどかは、加古川市野口町長砂 1076（円長寺町内会）にあるグループホームです。明姫幹線沿いの住宅地にあるので、閑静な住宅環境でありながら利便性も良い立地です。現在空きのある2階は、お風呂・トイレ・ミニキッチン・洗面が付いており、これまでの生活感を大切にしてお部屋です。ご夫婦のどちらかが認知症であればお二人で入居できますので、お二人のプライベート空間を確保しながら、介護は職員が支援します。看取り介護も行っていますので、人生の最期までグループホームで暮らしていただけます。見学もできますので、まずはお問合せ下さい。

家賃：100,000円（30㎡） 共益費：5,000円 食費：45,000円
※保証金やその他費用についてはお問合せ下さい。
※ご夫婦で入居の場合、共益費と食費は別途必要になります。
[問合先] せいりょう園 TEL（079）421-7156



【夏休みせいりょう園キッズクラブ利用受け付け中！】

日 時：7/22～8/30の平日8時～17時
利用料金：1日1,000円（半日利用の場合は500円）
場 所：リバティかこがわ2階（加古川市野口町長砂95-2）
持 ち 物：弁当（1日利用の場合）・水筒・夏休みの宿題等
利用方法：予約制（定員20名）



※利用のしおりと申込書有り（ホームページでダウンロードできます）

問 合 先：せいりょう園 TEL（079）421-7156

【せいりょう園空き情報 7月17日現在】

- ・サービス付き高齢者向け住宅リバティかこがわ：6室
- ・サービス付き高齢者向け住宅自愛の家さくら：6室
- ・グループホーム：空きなし ・グループホームまどか：1室
- ・ケアハウス：空きなし

【問合先】 せいりょう園 TEL(079)421-7156 / (079)424-3433

